パレスチナ人女性のヘアスタイル事情　（JVC ホームページから）

イラスト/かじの 倫子

パレスチナに赴任した直後の頃に最大のミステリーのひとつだったのが、「女性はどんな髪型をしているのか？」ということだった。いつもヒジャブと呼ばれるスカーフで髪を覆い、髪型が一切見えないからである。活動の一環でガザの家庭を突撃訪問するようになり、自宅でヒジャブを取った女性たちの姿を初めて見たときは、マジマジ見入ってしまったのを覚えている。

ガザ女性たちは結構な割合で髪を染めている。茶色だったり金髪だったり、いわゆる派手目な色を好んで、既婚者は大概セミロング、若い女性たちはロングで、一本の三つ編みにしていたり、大き目の髪飾りを付けたりする。日本人に比べると、くせ毛や天然パーマ（いい具合にくるくるしている）が多く、目鼻立ちもしっかりしていて、まつ毛も長いせいか、ヒジャブを脱ぐと素晴らしくゴージャスな感じが漂う。

一方、ヒジャブを着用中はおしゃれ心が無いかというと、そうではない。過去 10 ヵ月間の観察によると、ヒジャブにも 3〜4 種類の被り方があって、2 枚を重ねるようにして色のコントラストを楽しんだり（これが最近の流行で、内側に被るものは無地、外側は柄もの）、頭の形をよく見せるために、内側の髪型にわざとボリュームを持たせてヒジャブを被ったり（いわゆる日本女子の「モリ」である）と、髪が見えないなら見えないなりのファッションを楽しんでいる。美しく見せるために女性たちはどこの国でも頑張るのだ。

彼女たちのそんな心意気に触発されて、三十路に差し掛かった私も自分なりのオシャレに挑戦してみるものの、どうもうまくいかない。ウーム、やはり慣れないことは実践よりも見て楽しんだ方がよさそうだ、と自分に言い聞かせる日々である…。

金子 由佳
日本国際ボランティアセンター（JVC）　パレスチナ現地調整員
【出身】　埼玉県熊谷市生まれ
【プロフィール】　大学で国際関係学を専攻し、卒業後 6 年半 NGO や政府 ODA 実施機関で勤務。2011 年、オーストラリアクイーンズランド大学、国際政治学部、紛争予防及び平和学専攻で修士号を取得。その後国連大学、外務省勤務の後、2012 年 6 月より現職。大学院卒業直後、パレスチナ現地 NGO の活動にボランティアとして参加。一ヶ月の現地生活を通じて、パレスチナ人が直面する苦難を目の当たりにする。イスラエルによる占領状況を黙認する国際社会と、一方で援助を続ける国際 社会の矛盾に疑問をもち、国境を越えた市民同士の連帯と、アドボカシー活動の重要性を感じている。プロジェクトを通じて苦難に直面する人々と連帯し、その経験 を日本の人々とも共有したい。
【抱負】 アラビア語で女子トークをしてはしゃぐ。英語の更なる上達も目指す。